

2014年度

事業報告書

2014.4.1－2015.3.31

公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会

<http://www.women.city.yokohama.jp>

目 次

2014年度事業報告 総括	1
---------------	---

I 事業実施の状況

1 情報事業	3
2 調査研究・事業開発事業	5
3 広報啓発事業	7
4 相談事業	10
5 講座事業	16
6 協働連携事業	33
7 男女共同参画推進施設管理運営事業	43

II 施設利用状況・施設管理業務実施状況	44
----------------------	----

2014年度事業報告 総括

近年、「女性の活躍推進」がクローズアップされています。横浜市においては「日本一女性が働きやすい、働きがいのある都市 横浜の実現」が中期4か年計画の戦略1に掲げられているほか、国においても女性の活躍を推進するさまざまな政策が実施されています。

一方で、シングルマザー、非正規雇用で働きつなぐ女性、若年無業女性など、困難な状況にある女性が直面している問題は深刻で、「すべての女性が輝く」社会の実現には至っていない現状があります。

こうしたなか、当協会は、男女ともに人権が尊重され、だれもが性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会を実現することを目指して公益目的事業を実施し、また公益目的事業を補完するために収益事業を実施しました。

2014年度は横浜市男女共同参画センター第2期指定管理期間の最終年であることから、新たな事業展開の基礎となる調査や取組みに力を入れました。

《2014年度に実施した特徴ある事業》

1 就業支援事業対象者の実態に即したプログラムを開発するための2本の新規調査

横浜市において雇用されて働く女性の大多数が中小企業で働いている実態を踏まえて、「横浜市内の中小企業で働く女性の就労環境・意識調査」を実施しました。調査結果から、セクシュアルハラスメント対策が行われていないとの回答が8割を超えること、就業継続意向には収入階層により違いがあることなどが明らかになりました。

また、非正規雇用が増加している状況を踏まえて、「非正規で働くシングル女性（35歳～44歳）のニーズ・課題に関するヒアリング調査」を実施しました。その結果、調査対象者は経済的に厳しいだけでなく、健康不安や、帰属感を得にくい不安定さを抱えていることが浮かび上がりました。

2015年度には、これらの調査結果を踏まえた就業支援事業のプログラム開発に取り組んでいきます。

2 「女性としごと応援デスク」の開設

女性の就業支援事業強化の一環として、2015年3月に女性の再就職・転職のための総合相談窓口「女性としごと 応援デスク」を男女共同参画センター横浜北に開設しました。横浜市が実施した「女性の就業ニーズ調査」によれば、現在、収入を伴う仕事をしていない女性の9割以上が就業意向を持っていることがわかっています。これまでも当協会では、定期的に「女性のしごと相談」を実施してきましたが、応援デスクは、横浜市からの委託を受け、週3日開設する常設の

相談窓口です。今後、相談窓口を周知するための広報に注力するほか、サービスの更なる充実を図っていく予定です。

3 女性の就労促進学び直しプログラムの実施

国においては、各省が女性の活躍推進のための事業に取り組んでいます。本事業は文部科学省の「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」のなかの、「女性の学び直し」の枠組みに位置づけられるもので、同省からの委託を受け、資格取得によって専門職としてのキャリア形成が見込めて求人ニーズも高い、保育、介護、看護分野で就職・再就職したいという女性の学び直しを支えるプログラムを開発して試行実施しました。本事業実施によって、専門性を身に着けるための支援と並行して、ライフプランを見据えたうえでのキャリアプランニングへの支援や、就労へのモチベーションを高めていく支援が必要であることが確認されました。

4 男女共同参画の視点を地域防災に活かす取り組み

当協会では従来から『YOKOHAMA わたしの防災カノート』を活用した出前事業を多数実施してきました。2014 年度も市内外 33 カ所に講師として職員を派遣したほか、横浜市消防局の防災フェアにも参加するなど、積極的に取り組みました。

また、横浜市総務局の協力のもと、地域防災拠点の運営への女性の参画状況についてアンケート調査を実施しました。その結果、調査時点で女性が運営委員長を務める拠点は全体の 4%であることが明らかになりました。今後、女性が地域防災にリーダーシップを発揮していけるように、人材育成プログラムの実施等を検討していく予定です。

I 事業実施の状況

1 情報事業

◆2014年度の3館の概要

情報事業では、センター横浜の情報ライブラリ、センター横浜南の資料室、センター横浜北の交流ラウンジを中心に、男女共同参画の専門図書館としての特徴を生かし、さまざまな媒体の情報を収集・提供しています。

センター横浜の「女性としごとの情報コーナー」は8月にリニューアルし、「再就職」「転職」「法律・制度」「メンタルヘルス」等に加え、「リーダーシップ」と「障がいのある方、働きづらさのある方」のコーナーを新設しました。

センター横浜南では、資料室横の交流ラウンジでテーマ展示を積極的に行い、利用者が「気軽に本が読める場所」となるように努めました。

センター横浜北では、2015年3月から「女性としごと応援デスク」の開設に伴い、「女性としごと応援コーナー」を交流ラウンジ内に設置、就業支援（再就職・転職・資格等）に関する図書、チラシ架を整えました。また、書架の整理や入れ替えを行って交流ラウンジを改装し、図書利用の活性化を図りました。

3館合計の資料貸出数は2013年度比106%、資料貸出利用者数は104%と増加しました。インターネット予約件数も増加しています。



センター横浜北
女性としごと応援コーナー

◆展示による情報発信

発信するライブラリとしての取組みも、引き続き行っています。一つのトピックについて、3人の専門家が男女共同参画の視点で選んだ推薦本を展示する「おすすめ本フェア」は、「フォーラムまつり」を国際ガールズ・デーにちなんで実施したのに合わせ、「女の子に生まれて～世界と日本の女の子たちの今」をテーマに開催しました。センター3館での巡回展示終了後は、公共施設・企業等への貸出も行いました。

そのほか、センター横浜が月変わりで企画して



おすすめ本フェア「女の子に生まれて
～世界と日本の女の子たちの今」

いる「月別テーマ展示」を3館で巡回したほか、館ごとでも、講座や相談などの事業やその時々
の社会のできごとに関連したテーマでの展示を積極的に行いました。センター横浜では56テーマ、
センター横浜南では15テーマ、センター横浜北では34テーマと、3館とも前年度を上回る展示
を実施しました。

◆新着図書ピックアップ、メルマガ・ソーシャルメディア等を利用した情報発信

資料収集・提供の3館の中心館であるセンター横浜では、3館の新着本を案内する「新着図書
ピックアップ」を作成して配布しました。講座や相談などの利用者に資料を活用してもらうため
の課題別資料リストも作成し、3館で配布しているほか、ホームページでも公開しています。お
すすめ資料の情報を発信するメールマガジン「きらり☆ライブラリ@フォーラム」は毎月発行、
Facebook等のソーシャルメディアやホームページで新着図書情報、テーマ展示の案内等を随時発
信して、来館しにくい市民にも情報が届くように努めています。

<利用者の声>

- ・ 生き方を考える上で素晴らしい本が手にとりやすいよう工夫され、大変魅力的な図書館です。一般の図書館などとの違いをはっきり感じます。(センター横浜)
- ・ 面出しされたコーナーの本はひきつけられる本が多い。推薦本などは嬉しいポップがついてよいです。(センター横浜)
- ・ 他の図書館にない本があるのが良いです。(センター横浜南)
- ・ 近くの地区センターより興味のある分野（医療・こころ・育児等）が多いので、助かる。(センター横浜南)
- ・ 他のフォーラム施設でも返却できるのが便利です。(センター横浜北)
- ・ とても中身の濃い本が多いように感じられます。(センター横浜北)
- ・ 普段は読まないような本を読むことができ、勉強になります。(センター横浜北)

2 調査研究・事業開発事業

◆「市民・NPO がつくる男女共同参画事業」事例集の作成

「市民・NPO がつくる男女共同参画事業」の成果をふり返るとともに、当協会の公募事業に応募する際の参考となるよう、協働事業の事例集を作成しました。2011 年～2013 年度に実施した、「市民・NPO がつくる男女共同参画事業」の 83 企画の中から、課題設定や解決手法に男女共同参画の視点が十分に生かされているもの、新規性や独自性があるものという観点で 10 企画を選んでまとめ、ホームページで公開したほか、公募事業の募集説明会等で活用しました。

◆若年女性の社会参加体験プログラム開発・実施

センター横浜南では、社会から離れて一定期間家にいた若年女性が、就労体験の前段階として地域で人とのつながりを体験できるよう、2013 年度より「若年女性の社会参加体験プログラム」を開発・実施してきました。2014 年度は、地域の市民団体等の協力を得てさらに受け入れ先を増やし、地域の祭りや子ども向けイベントなど計 8 団体 21 回の体験事業を実施、参加者はのべ 51 人となりました。中でも、市民団体の協力による「和布講習会」は、手しごとを楽しみながら人と交流することを目的に 4 回実施し、のべ 18 人が参加しました。



子ども向けイベントでの
社会参加体験ボランティア

ボランティアを体験した参加者からは「団体スタッフの方に温かく迎え入れてもらい安心した」「子どもとのやりとりは楽しく、好きな自分でいられた」「普段あまり接することのない年代の方々と交流できてよい経験になった」等の感想が寄せられています。

◆地域防災拠点への女性の参画状況アンケートの実施

男女共同参画センター横浜北では、横浜市総務局危機管理室の協力を得て、市内 18 区に 455 カ所設けられている地域防災拠点（災害時の避難場所）の運営への女性の参画状況について 2014 年度の現況を聞きました。地域防災拠点は市内の小中学校が指定され、運営委員会は自治会・町内会等地域、学校、行政から成っています。

2013 度、女性が運営委員長を務める拠点は 18 カ所、全体の 4%でした。避難所の開設訓練などで、男女別の更衣室や授乳スペースの設置に取り組む事例も報告されましたが、地域における女性の活躍には、場や機会など課題が多いことがわかりました。また、男女共同参画センターの女性人材育成プログラムとの連携などを期待する声も寄せられ、今後の事業開発に資するアンケートとなりました。

◆横浜市内の中小企業で働く女性の就労環境・意識調査

「平成 24 年経済センサスー活動調査」によれば、横浜市における 300 人未満の事業所数は、11 万 3694 事業所で全体の 99%、従業員数は 117 万 6051 人で従業者数全体の 82%を占めています。横浜市で働く女性の活躍をさらに推進していくためには、従業員数 300 人未満の中小企業の状況を知ることが必要と考え、事業本部事業企画課では、横浜市内にある中小企業で働く女性対象にインターネット調査を行いました。300 人の女性から回答を得、結果を「横浜市内の中小企業で働く女性の就労環境・意識調査」として報告書にまとめました。調査の成果は、2015 年度以降に実施する女性の就業支援事業に活かしていく予定です。

◆非正規シングル女性調査

神奈川県内に在住し、非正規で働いている 35 歳～44 歳のシングル女性（シングルマザーを除く）を対象とした、ヒアリング調査を実施しました。調査対象者の中には、正規雇用時に過酷な労働環境から体調を崩し離職した人、非正規のままフルタイムかそれに近い時間働いている人などがいました。調査対象者は非正規のために賃金が上がりにくく、雇用期間の定めがある不安定な身分で、健康課題や、非正規の仕事と介護をどう両立していくかなど、将来への不安を感じていることがわかりました。これらの調査結果を「非正規で働くシングル女性（35～44 歳）のニーズ・課題に関するヒアリング調査報告書」にまとめ、2015 年 3 月に発行しました。2015 年度は、調査結果を元に、非正規シングル女性を対象とした支援事業プログラムの開発に取り組みます。

3 広報啓発事業

◆広報事業

男女共同参画についての理解を広め、その必要性を理解してもらうことが、男女共同参画を推進していくための第一歩です。しかし、性別役割分担意識や差別意識は長い時間をかけて形成されてきたものであるため、継続的な広報・啓発が必要です。協会では、多様な媒体を通して、男女共同参画の啓発とセンター3館で実施する事業の広報に取り組みました。

Web 媒体による広報では、ソーシャルメディアを活用した情報発信に力を入れ、13 のアカウントを運用しています。2014 年度は新たにセンター横浜北が「横浜女性ネットワーク会議」の Facebook アカウントを取得し、情報発信を行いました。このほかブログ、メールマガジン、起業支援やガールズ就労支援事業の専用サイトなどを活用した 2014 年度の協会ホームページの総アクセス数は 1,371,257 件となり、2013 年度比 108%と増加しました。

紙媒体では、広報・啓発誌『フォーラム通信』、年間の事業案内を掲載した『F ナビ 2014 年度版』等の協会独自の印刷物を発行しました。『フォーラム通信』では、特集テーマとして、横浜で暮らす外国人女性、企業・地域などで活躍する女性リーダー、柔道家の山口香さんなど女性アスリートの挑戦を取り上げました。



『フォーラム通信』春号

また、センター横浜では、コミュニティラジオ局エフエム戸塚で定期的に情報発信を行いました。毎月第4土曜の午後、「こんにちは、フォーラムです!」というコーナーで、自助グループや就業支援事業、フィットネス講座など、さまざまな事業の様子を職員や講座参加者等の生の声でリスナーに届けました。番組内容は YouTube で公開し、事業アーカイブとして利用できるようにしました。

このほか、新聞、タウン紙等の媒体にも随時情報提供を行い、男女共同参画事業を積極的に伝えるように努めました。

◆啓発セミナー等

センター横浜、センター横浜北では、大学へ出張プログラムを実施しました。

センター横浜では、横浜市こども青少年局からの受託事業として、ライフイベントとキャリアデザインをテー



大学へ出張プログラムの様子

マにした講座を、神奈川大学、明治学院大学および八洲学園大学にて実施しました。

センター横浜北では、桐蔭横浜大学、カリタス女子短期大学、日本女子大学の3大学にて、男女共同参画への理解を深め、これからの生き方や働き方を考えるための授業を行いました。

このほか、センター横浜では、女子児童の理系進路選択を応援する「コムギの不思議～理科っておもしろい！女の子だけの実験教室」を横浜市立大学木原生物学研究所との共催で実施しました。小麦粉のグルテンとデンプンがどんなものなのかを実際に見て、触り、実験結果をもとにオリジナルの配合で作ったうどんを食べ比べることで、食と科学を楽しみながら学ぶことができました。また女性の講師や学生アシスタントと接することで、理系で活躍する女性のロールモデルを、身近に感じてもらえる場になりました。



「コムギの不思議～理科っておもしろい！
女の子だけの実験教室」

また、センター横浜北では、(株)サンケイリビング新聞社横浜本部との共催で「新現役おやじのために～身の丈起業入門塾」を開催しました。定年後もキャリアを活かし、身の丈に合った地域活動やビジネスを始めたいと考える50代～60代男性15名が、自分を見つめ、新たな可能性を見出そうと参加しました。

◆若い世代に向けたデートDV 予防啓発写真展の取り組み

2013年度に制作した「STOP! デートDV 写真展 photo by 小野啓」の展示パネルを3館のほか、横浜市内の青少年施設や戸塚区役所、栄区役所や青森県男女共同参画センター等へ巡回し、計12回の展示を行いました。アンケートでは、「身近にこのような状況におかれている友人がいるので、一つひとつの言葉が自分に無関係ではないと感じた」(男性・10代)、「とても共感できるところがあった。きっと自分は彼氏にデートDVされているのだと思った」(女性・10代)といった声も寄せられ、デートDVを自身や周りに引き付けて考える場を数多くつくることができました。同時に、相談窓口の周知を行いました。



「STOP! デートDV 写真展 photo by 小野啓」
横浜市青少年交流センターでの展示

◆研修講師派遣事業

研修講師派遣事業では、セクシュアル・ハラスメントの防止や若年女性の自立支援、男女共同参画、DV等のテーマで職員の講師派遣を行いました。また、横浜市の審議会や各種会議等にも、職員が委員として参画しています。

<利用者の声>

- ・ 将来どのようにしたいかを考えることがとても大切だとわかりました。就職だけでなく、今後の暮らし方について考えていきたいです。(キャリアデザインセミナー)
- ・ 自分が何をしたいのか、どうしたいのかを明確にすることが第一歩だとよくわかりました。自分自身を見つめなおすよいきっかけになりました。ありがとうございました。(新現役おやじのために～身の丈起業入門塾)
- ・ 年の近い方々と起業について、ざっくばらんに意見交換ができ、たいへん刺激を受けました。起業までもっていけるかどうかはわかりませんが、まだ 60 歳、これからの人生を充実したものにするため、自分にできる何かを今後も模索していきたいと考えています。講師の先生方、ありがとうございました。(新現役おやじのために～身の丈起業入門塾)
- ・ 自由研究に役立てやすい説明などがあったので、理科を楽しめました。(コムギの不思議～理科っておもしろい！女の子だけの実験教室)
- ・ 文字があえて薄く書いてあるので、そこに注目できました。異性とお付き合いすることは楽しいことだけじゃないと分かりました。(STOP! デートDV 写真展 photo by 小野啓)
- ・ デートDV が増えていると聞くので、このような展示を行うことで、少しでも減らせるといいと思います。(STOP! デートDV 写真展 photo by 小野啓)

4 相談事業

(1) 心とからだと生き方の総合相談

◆個別相談

電話相談は、センター横浜の「心とからだと生き方の電話相談センター」（休館日を除く毎日 9 時～16 時、祝日を除く月曜・金曜は 18 時～20 時に対応）で集中的に対応しています。また職員による面接相談および弁護士・医師相談は、相談者の希望に応じて各センターで実施しています。

電話相談のべ 3,887 件のうち、最も件数が多かったのは、家族、親族、近隣等についての相談で全体の 36%、次に多かったのが DV の相談で 15%でした。横浜市 DV 相談支援センターが 2011 年 9 月に開設されて以来、電話相談については DV を主訴とした相談割合は年々低くなる傾向があります。しかし、面接相談（弁護士・医師相談含む）395 件については、53%が DV の相談で最も多く、常に相談者の心身の安全、安心を考慮した対応を行っています。

また、相談員の対応力を向上させることを目的に、「グループファシリテーション」や「相談員同士でのスーパービジョン」の手法を学んだほか、精神科医師による「アセスメント」や「喪失・グリーフ」をテーマにしたスーパービジョンを行いました。加えて市中央児童相談所職員による児童虐待に関する相談対応についての研修も行いました。

地域へのアウトリーチとして、外国人女性検診を実施する診療所に出向いたほか、前年度に引き続き、女性保護施設からの依頼を受け、DV に関するワークショップ講師を担いました。

12 月から 3 月にかけて、面接相談利用者に対して、満足度を問うアンケートを実施しました。
①「安心して相談できたか」については、「大変安心できた」「安心できた」が合わせて 100%、
②「相談員の対応について」③「気持ちの整理に役立ったか」④「役立つ情報、知識が得られたか」については、いずれも 9 割以上が「よかった」「役に立った」などと回答しており、高い評価を得ることができました。

◆DV 被害女性のためのグループ相談

同じような体験をした人と出会い、語り合いたいというニーズに応え、DV を体験した女性のためのサポートグループを 3 コース実施しました。グループでは、それぞれが直面した状況の理不尽さや怒り、不安などの感情に気づき、言葉にすることで自分の体験を客観化・相対化できるといふ効果が期待できるうえ、体験者同士の共感の場、自分一人ではないと気づく場、支え合いの



相談室

場となっています。昨年度に引き続き、加害者と別居している女性のグループ、加害者と同居している女性のグループ、DV の子どもへの影響を心配している女性のためのグループの各コースで相談員がファシリテーターを担い、グループ全体の安全に配慮しながら、参加者が安心して発言でき、一人ひとりの語りが他の参加者の気づきにつながるように留意して進行しました。

◆自助グループ支援事業

生きる上での困難や悩みを抱えた人たちが、同じ問題を抱える人とつながり、気持ちや情報などを分かち合う「自助グループ」を公募し、ミーティングのための会場提供や保育などの支援をしています。2014 年度に支援したグループは、センター3 館で 39 グループ、ミーティング参加者は、のべ 7,003 人となりました。グループのテーマは、アルコール、ギャンブル、摂食障害などの嗜癖に関するものの他、AC（アダルト・チルドレン）、子育て、ひとり親、DV 被害、化学物質過敏症、セクシュアル・マイノリティ、知的／発達障がい、性による傷つきなどさまざまで、センター3 館で定期的にミーティングが開かれています。

また、活動を継続するための支援として、グループ運営者が運営上の困りごとを相談し、思いを共有しあう交流の場を設けました。

グループの安全を守るため、場所や日時を非公開としているグループについては、相談員が参加希望者に事前ヒアリングを行った上で、自助ミーティングにつなげています。

<利用者の声>（すべて面接相談より）

- ・ ここにくるまで、不安しかありませんでした。話をして次のステップに進めた感じがして頑張れそうです。
- ・ 安心と心の整理、そしてこれからの生きる勇気をいただきました。
- ・ 今まで自分なりに我慢してきた事を認めて、「頑張りましたね」と言ってくれた事が、私の人生の力になりました。
- ・ 長い間相談できなかった事を聞いてもらえて、勇気を出して連絡して良かったと思います。

(2) 横浜市 DV 相談支援センター

◆DV 相談支援センター業務

横浜市男女共同参画センターは、配偶者からの暴力防止と被害者の保護等に関する法律（以下、DV 防止法）に基づく横浜市 DV 相談支援センターとしての役割を担っています。横浜市における DV 被害者支援は、横浜市こども青少年局内に統括・調整部署を置き、各区福祉保健センター、男女共同参画センターの3組織が一体となってDV相談支援センターとして機能している点に特徴があります。3 組織で連携してケースワークを行うほか、定例の連絡会や合同研修を通じて情報共有や支援の質の向上に努めています。

男女共同参画センターが担う DV 相談支援センターの業務は、①専用回線による電話相談、予約制の面接相談、②被害者の安全や問題解決に役立つ情報提供、③関連する福祉制度の利用における情報提供・助言、④来所相談証明書の申請受付・交付、⑤一時保護に関する相談・情報提供、⑥保護命令に関する相談、⑦被害者の自立や心身の回復を支える男女共同参画センターの資源・機能活用に関する案内です。

男女共同参画センターが担った相談内容は、「夫から大声で怒鳴られて怖い」「暴力は毎日ではないけれど、こういうのも DV というのでしょうか」など、DV に関する相談が最も多い結果となっています。そのほか心身への影響や、離婚に関する内容も多く寄せられました。首を絞める、刃物で脅す等の命にかかわる暴力被害については、安全確保を第一優先として、身近な警察署や区役所への相談を提案し、相談者の了解を得ながら事前連絡も行います。

面接相談では、必要に応じて弁護士相談、医師相談を行ったほか、法律講座、就業支援関連の講座や相談、自助グループについて情報提供するなど、男女共同参画センターがもつ資源を活用した支援を行いました。

一時保護や福祉制度利用のニーズがあるケースについては、こども青少年局と連携をとりつつ、区福祉保健センターに照会し、児童虐待が起こっているケースについては児童相談所、区福祉保健センターと連携して対応しました。

また、DV 相談支援センターとしてのよりよい支援を行うことを目的として、所管部局との毎月の連絡会に加え、米国在住のDV被害者支援団体スタッフを招いて「ハーグ条約」（国際的な子の奪取の民事上の側面に関する条約）に関する合同研修を8月に行いました。2015年1月から2月には、相談員の人材交流研修を実施し、相互の業務について理解を深めることができました。

(3) 性別による差別等の相談

◆相談・問合せ状況

横浜市男女共同参画推進条例第 10 条に基づき、女性であること、男性であることを理由とした不利益な取扱いなど、性別による差別等により人権が侵害された場合の相談を受けています。

「相談の申出」を受けた場合には、解決に向けた希望を聞いた上で、複数の専門相談員（※）が対応について話し合い、調査を行います。また、必要に応じて、人権侵害の改善に向けた要請・指導を関係者に行っています。電話等による年間の相談・問合せ件数は 93 件で、2013 年度の相談・問合せ件数に比べて 4 件増加しました。

相談・問合せ内容の内訳をみると 2014 年度は、「その他」22 件（23.7%）が最も多く、内容としては、性別による差別等の相談申出制度の対象外で、相談先の問合せが主でした。次に、「夫婦関係」15 件（16.1%）「セクシュアル・ハラスメント」14 件（15.1%）、「暴力」13 件（14.1%）となっています。「セクシュアル・ハラスメント」14 件の相談のうち、職場におけるハラスメント相談が 8 件、大学、学校におけるハラスメント相談が 4 件、病院でのハラスメント相談が 1 件、地域でのハラスメント相談が 1 件ありました。

相談・問合せの男女比は、女性が 70 件（75.3%）、男性が 20 件（21.5%）と女性が引き続き高い傾向にありますが、2013 年度と比べ男性の相談が 6.9%増加しています。機関等からの問い合わせは 3 件ありました。

相談経路としては、広報媒体によるものが 33 件（35.5%）と多く、インターネットで検索をして相談する件数が 15 件、次に「暮らしのガイド」を見ての相談が 9 件でした。

◆2014 年度取扱事案

2014 年度新たに提出された条例に基づく申出事案 3 件について、専門相談員により検討を行いました。

申出事案の内容は 3 件とも「セクシュアル・ハラスメント」であり、1 件は職場におけるハラスメント、2 件は地域におけるハラスメントに関するものでした。2 件は年度内に終結し、1 件は次年度に継続します。

※専門相談員

当協会が委嘱した、男女共同参画に高い見識を有する学識経験者、人権擁護委員、弁護士の計 4 名により構成しています。専門相談員は申出者との面談、調査の必要性の検討、関係者への調査など、申出事案の対応処理において重要な役割を果たしています。専門相談員会議は原則として毎月 1 回開催され、個々の申出事案についての処理方針等を検討します。

(4) 女性のしごと相談ステーション

◆しごととの相談

女性が子育てや介護など、ライフステージに応じてさまざまな役割を担いながら、自分らしく働き続けることは、今の社会ではまだ困難です。そのため、3 館で女性のしごとに係る相談を実施しました。

「キャリア・コンサルタントによる女性のための就職・転職相談」(センター横浜、センター横浜北)、「社会保険労務士による女性の労働サポート相談」(センター横浜南、センター横浜北)、「シングルマザーのための就労相談」(センター横浜北)に加えて、2014 年度は新たに「女性のための福祉・介護のしごと相談」(センター横浜、センター横浜南、センター横浜北)を実施し、計 126 件の相談を受けました。

「キャリア・コンサルタントによる女性のための就職・転職相談」は依然として申込みが多く、非正規就労中の相談者から「よりよい条件や自分にあった働き方」を求める相談や、メンタル面の不調を抱えながら仕事をせざるを得ない状況の方から「専門性もなく、何をしたらよいかわからない」と自分の状況整理や情報収集の仕方を求める相談などが寄せられています。

(社福) 横浜市社会福祉協議会との協働により、3 館で新たに実施された「女性のための福祉・介護のしごと相談」では、福祉の現場についての初歩的な情報を求める相談と、子育てを終えた有資格者の復職の相談、二つの傾向がみられました。

◆起業相談

センター横浜の女性起業 UP ルームで受けている「女性のための起業準備相談」と「女性起業家のためのホームページ診断」の年間の相談件数は合計 218 件、月平均約 18 人の利用がありました。起業アドバイザーでもある専属ナビゲーターの実践的で具体的なアドバイスが好評です。

「あいまいだった課題が形になってみえてきた」「ホームページの改善点が具体的にわかった」などのほか、「実際に連絡のとれそうな先輩を紹介してもらえてありがたかった」という声もあり、8 年目を迎えた女性起業 UP ルームのネットワークが活かされています。



「女性起業家のためのホームページ診断」

<利用者の声>

- ・ 自分の適性について改めて確認することができました。今後仕事を探していくうえで方向性を見失わずに進めていこうと思いました。専門家からの客観的なアドバイスは大変役立ちました。(キャリア・コンサルタントによる女性のための就職・転職相談)
- ・ どのような制度を利用すべきなのか、情報を得ることができました。本やインターネットの情報だけでは自分に合っているのかわからなかったが、実際に話せたことで自分の働き方が分かったような気がします。役立つ情報をありがとうございました。(社会保険労務士による女性の労働サポート相談)
- ・ 頭の中が整理できました。子どもとしっかり向き合えば、一緒にいる時間が短くても大丈夫と言ってくださって安心しました。(シングルマザーのための就労相談)
- ・ 自分の持っている資格や働き方に合った仕事を教えてもらい、就職活動にとっても役立ちました。子育てをしているとなかなか仕事探しができないので、今日はとても勉強になりました。(女性のための福祉・介護のしごと相談)
- ・ 相談することで、自分の事業計画の課題が明確になりました。具体的な改善ポイントに気が付き、相談して良かったです。(女性のための起業準備相談)
- ・ 自分のホームページを画面上でみながら、トップページの課題や修正するポイントについてアドバイスを得られました。競合先とのホームページの差別化についてわかってよかったです。(女性起業家のためのホームページ診断)

5 講座事業

(1) 女性の就業支援事業

◆起業支援事業

センター横浜の女性起業 UP ルームでは、起業をめざす女性を支援する事業を拡充しました。起業に関心のある女性が段階別に受講できる「女性のための起業準備セミナー」の基礎編・助走編・実践編のほか、自分に必要な知識やノウハウを学べる「女性の起業に役立つスキルアップセミナー」では、新たに経営者として雇用・労務管理を学ぶセミナーを開催しました。また具体的な事業プランをもつ人のための集中塾「女性起業家たまご塾」(前期・後期)を実施しました。開催したセミナー・講座の約9割に定員を上回る申込みがあり、年間でのべ447人が受講しました。



「女性起業家たまご塾」前期コース

「女性起業家たまご塾」の前期「事業プラン完成コース」は、収益が出るしくみを徹底的に検証する講座です。起業をめざす女性から「数字が苦手」との相談が多く寄せられたことから、プログラムを一部見直し、利益を出すためのワークを強化しました。後期「HP 設計コース」では、HP の仕組みや売れるサイトの戦略を学び、個々のプランのトップページと商品ページを設計しました。「女性起業家たまご塾」では、講座と並行して Facebook グループやメーリングリストを活用しており、受講者はのべ1,213通にのぼる投稿を通して、多くの気づきや学びを得ています。

横浜市特定創業支援事業の認定を受け、新たに取り組んだ「女性の社会起業スクール」は、居場所づくりに取り組んでいる NPO 法人の現場視察2回を含む5回の連続講座として開催しました。さまざまな切り口で、地域の課題をビジネスの手法で解決したいと考える女性18人が参加し、地域で人と人とのつながりを取り戻すための個々のプランを練り上げ、成果発表を行いました。

「女性起業家たまご塾」修了者への新たな支援として、対面での販売やサービス実施の実践的な体験ができる「女性起業家フェア」を開催しました。起業応援セミナーとの同時開催で、修了者18人による物販やワークの体験、サービスの展示、ミニセミナーに約250人の来場がありました。

また、(公財)横浜企業経営支援財団と合同で、横浜市の女性対象の起業支援が一覧できるパンフレットを制作、同財団との共催で「女性のための起業チャレンジセミナー」なども開催しました。このほか、横浜市経済局が統括し、みなとみらい地区で実施したイベント「横浜ウーマンビジネスフェスタ2014」に実行委員として参画し、横浜市や他機関との連携を深めました。

センター横浜南では、交流ラウンジで「小箱ショップ」を運営し、女性たちの小さな起業を支援しています。年間でのべ 93 件の出店があり、さまざまな手仕事の作品が販売されました。

◆シングルマザーの就労支援事業

事業本部事業企画課では、神奈川県・横浜市等 5 自治体から「シングルマザーの就職・転職応援セミナー」を受託して、センター横浜、センター横浜北を会場に 12 講座を開講しました。就職活動に直結する応募書類の書き方や面接対策のほか、将来設計に必要なお金を考えるファイナンシャルプランニング、自分に合ったストレス解消法を知るワークショップなど、生活の様々な場面に活かせる情報を盛り込み、申込者は合計 110 人に上りました。

◆「ガールズ」（若年無業女性）就労支援事業

若年シングル女性を対象とする「ガールズ編 しごと準備講座」は第 11・12 期をセンター横浜で開催し、合計 47 人の参加がありました。講座修了後には、講座修了者や、働きづらさ・生きづらさの悩みを抱える女性、地域の支援者が料理や食事をしながら話をしてつながる、わかちあいの場「ガールズ いちごの会」を年 4 回開催し、のべ 56 人が参加しました。

センター横浜南では、「ガールズ編 しごと準備講座」修了者等に就労体験の場「めぐカフェ」を提供して、市内の若者支援機関と連携しながら自立へのプロセスを継続して支援しています。2014 年度は、社会参加するための訓練「若年女性の『めぐカフェ』就労体験<ステップ 1>」に 15 人、「めぐカフェ」でチームの一員として働くための訓練「若年女性の『めぐカフェ』就労体験<ス



「若年女性の『めぐカフェ』就労体験」

ップ 2>」に 8 人が参加しました。就労体験事業は、よこはま若者サポートステーション（以下、サポステ）等との継続的な連携のもとで行っており、サポステで個別相談を受けながら就労体験に参加する仕組みが、体験者の個別支援に役立っています。2010 年度からの就労体験は総計 82 人にのぼっており、このうち少なくとも 41 人が何らかの就労をしています。

また、職員が専門研修や地域の支援者研修の講師を務めるなど、取組みや成果の紹介なども行っています。神奈川新聞の連載記事や NHK の情報番組「あさイチ」で、運営して丸 4 年になる「めぐカフェ」等の取組みが掲載、放映されました。

◆非正規シングル女性の就労支援事業

センター横浜では、働きづらさや生きづらさを抱える非正規雇用や就活中などのシングルの女性を対象に、「シングル女性のシゴトのしゃべりバ『つなガール』」を開催しました。3 回の開催

に 34 人が参加し、今の経済状況や働きづらさ、働き続けるための課題を共有した後、サバイバルの仕方を話し合い、支え合いのきっかけとなりました。

◆女性の再就職・転職、継続就業支援事業

センター横浜北では、再就職・転職支援事業と、女性が働き続けるための継続就業支援事業を実施しました。

再就職・転職支援事業として、(株) アイデムと横浜市民局との 3 者協働で運営した、女性のための求人情報サイト「わたしのおしごと HAPPY ナビ」の閲覧件数はのべ 26, 251 人件でした。合同会社説明会「シングルマザーと企業をつなぐ就職イベント」(主催：(一社) 日本シングルマザー支援協会) では、63 人が参加し 5 人の就職が決定しました。「女性のための再就職準備『講座ルトラヴ



「しなやかに！したたかに！
女性リーダーのための仕事力 UP 塾」

アイエ』(第 62 期)」には 10 人が参加し、自己理解を深めながら求職スキルの習得に取り組みました。また、子育て中の女性の等身大の働き方を紹介する場として「笑顔で働きたいママのフェスタ in 神奈川」(主催：笑顔で働きたいママのフェスタ in 神奈川実行委員会) を開催、2, 000 人の子育て中の女性が参加して、自分らしく社会とつながる方法を考える機会となりました。横浜市受託事業として 3 月より開設した、女性の再就職・転職のための総合相談窓口「女性としごと 応援デスク」では、就活ナビゲーターが、就職活動に関する情報提供や個別アドバイスのほか、予約制のキャリアカウンセリングでキャリアの見直しや就職活動のプランニングを行っています。

継続就業支援事業としては、損害保険ジャパン日本興亜(株)と横浜市民局が連携して行う「地域ダイバーシティ in 横浜」にセンター横浜北が幹事として参加し、女性営業職のワーク・ライフ・バランスとキャリアづくりをテーマとしたセミナーを開催しました。リーダー層の女性に向けて学びと交流を促進する「しなやかに！したたかに！女性リーダーのための仕事力 UP 塾」は、横浜市の中心部にある横浜メディア・ビジネスセンターとセンター横浜北とで 2 回開催し 43 人が参加しました。

◆女性のための就労促進学び直しプログラム

文部科学省からの委託を受け、保育・介護・看護分野で就労したいという意欲をもった女性を対象に「女性のための就労促進学び直しプログラム」を試行実施しました。このプログラムの企画実施にあたっては、横浜市民局、経済局、こども青少年局、健康福祉局、ハローワーク横浜、(公財) 横浜 YMCA、(社福) 横浜市社会福祉協議会のほか、アドバイザーとして桜美林大学教授

森和代さんの協力を得ました。プログラムは実施説明会を経て受講者を募集し、6 回の「キャリアプランニング講座」、2 回のキャリアカウンセリング、その後長いものでは2 ヶ月の専門研修を受講という流れになっています。

プログラム参加者は15人、うち5人が介護職員初任者研修を修了しました。ほかにも、保育園でのインターンシップを終えてすぐに保育園に就職した人、保育士資格取得をめざして本格的に勉強を始めた人、インターンシップを経験したあと福祉分野での就労を取りやめ事務職として就職を決めた人など、参加者が就労に向けて何らかの行動を起こしていることがわかりました。

また、プログラム実施中に、3 回にわたって「再就職・転職に向けてのアンケート」を行い、受講者の「自己効力感」を測定しました。結果を分析し、受講者ひとり一人により役立つ支援を見極めるツールとして活用するとともに、講座の有効性を測るスケールとして、今後さらに改良を加えて開発する予定です。



「女性のための就労促進
学び直しプログラム」説明会

◆横浜女性ネットワーク会議

横浜市の補助事業として開催した「横浜女性ネットワーク会議」には、定員を大きく超える398人が集いました。基調講演に厚生労働事務次官の村木厚子さんを迎え、しなやかに働き続けるヒントや一歩踏み出すためのチャレンジ、女性の活躍を促進するための企業の挑戦を学ぶとともに参加者同士の交流を深め、会場は熱気にあふれました。



「横浜女性ネットワーク会議」

＜利用者の声＞

- ・ 場の雰囲気が本当に良く、お昼を何人かで食べられたことで友だちができた、人づきあいに前向きになれ、自分のためなところを受け入れられるようになりました。ヨガやアサーティブなど、普段はしない体験ができました。(ガールズ編「しごと準備講座」)
- ・ 徐々に就労(体験)をして気付いたことは、自分が変われば環境も変わる。そして環境が変われば自分ももっと成長できるということです。就労体験を通して、たくさんの人と接することで、今まで失ってしまった自信を少しだけ取り戻すことができました。自分がここにいてもいい存在だと思えることができました。(若年女性の「めぐカフェ」就労体験＜ステップ1＞)
- ・ 起業について必要な情報、知識を得ることができました。具体的に数字を扱うことで、現実を見ることができたと思います。他の方の事業プランと比較し、自分のビジネスに何が足りないのかという気づきを得ることもできました。(女性起業家たまご塾 第8期「事業プラン完成コース」)
- ・ 講座のすべてが役立ったと思います。自分ひとりでは出来ないことを学べたり、客観視できる良い機会となりました。何よりもひとりではなく、仲間がいるということが安心でもあり、刺激にもなったことが良かったです。(女性のための再就職準備「講座ルトラヴァイエ」(第62期))
- ・ 求人市場の最新情報、シングルマザーの就活のポイントなど、まさに目からウロコでした。参加して本当によかったです。すぐに行動してみます。(シングルマザーの就職・転職応援セミナー)
- ・ リーダーの視点、マネジメントの視点について系統立って学ぶことが出来、非常に有意義な時間でした。信頼されるリーダーになるために今後も受講できればと思います。(しなやかに！したたかに！女性リーダーのための仕事力UP塾)
- ・ 就活ナビゲーターには具体的な検索方法を教えてもらえ、助かりました。キャリアカウンセラーは話しやすく、質問形式で聞いてくれて、頭の中を整理できました。親身になって相談にのってもらえました。(女性としごと 応援デスク)
- ・ 第一線で活躍されている方々も、私と同じような気持ちや体験をされていることがわかり、私でもやれるかも・・・という気持ちになれました。(横浜女性ネットワーク会議)
- ・ 「この事業は〇〇さんにとってどうだろう」と具体的な人をイメージするとの話は印象的でした。自分の事業計画を立てる際、練る際、立て直す際のどの段階でも忘れないでおきたいと思いました。(女性のための社会起業スクール)

(2) ワーク・ライフ・バランス支援事業

◆保育園セミナー、ダブルケアシンポジウム

仕事と子育ての両立を応援するため、地域の保育園情報を提供するセミナーを3館で実施しました。センター横浜で開催した「ママ＆パパのための保育園セミナー in 戸塚」には、定員を大幅に超える申し込みがありました。夫婦での参加が85%にのぼり、仕事と子育てを両立するための情報への切実なニーズが感じられました。センター横浜南での「知っておきたい！保育園★最新事情～仕事と子育て応援セミナー」では、区の保育コンシェルジュや保育園長が説明を行ったほか、仕事の探し方・続け方について情報提供をしました。参加者同士のグループワークや体験談などを取り入れたことも好評でした。センター横浜北では、「はじめての保育園 in 横浜」と題して保育園を考える親の会との共催で実施しました。初めて保育園を利用する人を対象に入園手続きや横浜市の保育園事情を解説し、先輩の体験談には「同じ立場の方のアドバイスが励みになった」という感想が寄せられました。センター横浜では、保育園セミナー開催後に2回の「育休後カフェ@フォーラム」を開催し、育休中の女性を中心とする22人が参加して、職場復帰に向けた具体的な準備について話し合いました。



「知っておきたい！保育園★最新事情
～仕事と子育て応援セミナー」

「ダブルケア全国シンポジウム」は、2012年度から実施されたダブルケア（介護と育児の同時進行）の調査研究を踏まえて、今後の当事者への支援、社会的ケア支援、政策のあり方を考えることを目的に、横浜国立大学アジア経済社会研究センターとセンター横浜南が共催しました。当事者、介護や子育て支援者、行政関係者など100名の参加があり、分科会では今後の支援のあり方、新しい包摂的ケア政策について活発に意見が交わされました。



「ダブルケア全国シンポジウム」

◆企業向けセミナー（仕事と介護）

高齢化社会の中で親等の介護をしながら働く人が増える中、事業所として何ができるのかを考えるため、横浜南法人会大岡支部の協力を得て、センター横浜南でワークライフバランスセミナー「介護する社員を支える」を開催しました。親の介護で会社を辞めた経験を持ち、



ワークライフバランスセミナー
「介護する社員を支える」

現在は中小企業の人事担当である講師に体験談や会社での取組みを伺った後、参加者同士が気軽に意見交換できるよう、グループに分かれて話し合う場をもちました。参加者からは「まだまだ先のことだと思っていた介護の問題について、リアリティのある話を聞くことができた」などの感想が寄せられました。

◆父親参加型ひろばの開催

父親の育児参加を促し、子育て中の親子が地域でつながりをつくるきっかけにもなっているのが父親参加型の“ひろば”事業です。「ファミリーデー」「パパも遊ぼう土曜ひろば」「パパ&ママとあかちゃんのふれあい運動あそび」「パパといっしょのひろば」など、保育者が親子遊びをサポートする事業を3館で開催、水遊びやクリスマス会など季節感を取り入れた遊びを親子で楽しみました。

◆男性の地域活動・生活自立支援講座

センター横浜北で、男性の料理教室「男が作る日常食入門」を実施しました。定年後の食事作りをする、共働きのため自分で料理をするなどが参加動機で、包丁使いなど料理の基本を実践的に学ぶ内容でした。参加した男性たちは作った料理への満足度も高く、世代をこえた男性同士の交流も生まれました。

男性ボランティアが中心となって、センター横浜とセンター横浜南で開催している「おもちゃ病院」は定期的で開催され、安定したニーズがあります。修理の説明に興味深く聞いたり、質問したり、パパと子どもが親子で来館するきっかけづくりやボランティアと交流する良い機会になっています。

◆転妻（てんつま）キャリアカフェ

センター横浜北では、転妻（てんつま）コンサルタントの奥田美和さんを講師に迎え、「転妻（てんつま）キャリアカフェ in 横浜 ～転勤族の妻の悩み、あれこれ話そう」を開催しました。配偶者の国内外の転勤により、転居、子どもの転校などの環境の変化や自身のキャリアの中断などを経験せざるを得ない女性ならではの悩みを共有しました。お互いの経験を分かち合い、様々なロールモデルや選択肢があることを知る機会にもなりました。参加者の8割が講座終了後のランチ会に参加し、転勤族の妻同士のつながりや情報交換の場をもちたいという思いの強さが伺えました。



「転妻（てんつま）キャリアカフェ in 横浜
～転勤族の妻の悩み、あれこれ話そう」

＜利用者の声＞

- ・ 情報が多岐にわたっておりよかった。同じような状況の方々と話せて有意義な時間でした。(知っておきたい！保育園★最新事情～仕事と子育て応援セミナー)
- ・ 復帰直前なので、復帰直前リストや仕事に戻った後のタイムスケジュールなど、準備すべきことを確認できました。実際復帰された方のお話を聞いたので、具体的な復帰後のイメージを持つのに役立った。(育休後カフェ@フォーラム)
- ・ 報告の中のダブルケアのケース紹介、涙が出そうでした。保育所は介護の理由だとなかなか入れず、だれかに預けたい、誰かに助けてほしいと心の底から思いました。こういう声がどんどん行政に届き、NP0に届き、ケアマネや保育士に届いて悲しい思いをする人が減るといいなと思う。(ダブルケア全国シンポジウム)
- ・ 土曜、日曜は育児広場が閉まっていることが多いので、こういうイベントがあると、とても助かります。体を動かして子どももとても楽しそうでした。(子どもの部屋ファミリーデー)
- ・ 動かなくてあきらめていたのに、動くようになって本当にうれしい。モノを大切に使うきもちがより一層増しました。(おもちゃ病院)
- ・ 初めて転妻が集まる場に来ましたが、同じような悩みを持っている人が多い中でアクティブに活動されている方がいて、とても励みになりました。転妻だからできないという考えを忘れるぐらいに動いていきたいなと思います。(転妻(てんつま)キャリアカフェ in 横浜 ～転勤族の妻の悩み、あれこれ話そう)

(3) 心とからだのセルフケア事業

◆健康課題別体操教室

センター3 館では、さまざまなライフステージで生じる、女性の健康課題を改善するための体操教室を行いました。産後の女性の心とからだをケアするプログラム「あかちゃんと一緒に・・・産後ママの骨盤ヨガ」、「産後ママのボディケア」(センター横浜)、「子育てママの骨盤底筋エクササイズ」(センター横浜南)、「心とからだを整える産後のセルフケア」(センター横浜北)は、いずれも好評で、高い満足度を得ることができました。センター3 館で実施の「女性のがん手術後のリハビリ体操」は、(公財)住友生命健康財団の2 年目助成が決定し、参加費の無料化が継続できています。センター3 館では、女性に多い腹圧性尿失禁を改善する「骨盤底筋体操」、更年期の不調を緩和する「更年期にやさしいストレッチ」「更年期のリフレッシュ体操」など、ライフステージによって変わる女性特有の健康課題に対応するプログラムを提供しています。



当日参加教室「心とからだを整える
産後のセルフケア」

◆生涯にわたる健康づくり体操教室

心とからだの健康の増進や回復を目的とした健康体操、呼吸法、整体法、太極拳、ヨガ、ピラティス、バレエ、ダンスなど多彩なプログラムを、センター3 館で提供しました。

開催回数が1～2 回と参加しやすいものから、より効果的に健康づくりに取り組めるよう、週1 回ずつ定期的に6 ヲ月、3 ヲ月(全6 回～11 回)と中・長期的に参加できる講座など、さまざまなバリエーションを用意し、各館で利用者のニーズに対応しています。



3 ヲ月コース「週末リラックスヨガ」

◆健康セミナー等

センター横浜では(公財)住友生命健康財団の継続助成を受け、昨年健康セミナーで好評だった医師の土井卓子さんを講師に、女性の健康セミナー「乳がん、その後をわたしらしく」の第2 弾を無料で開催しました。乳がんの治療の現在、その後の心身のケアに関する講義のほか、自身が乳がん体験者で「ガーゼ帽子づくり&おしゃべりサロン」の講師としても活躍する吉田久美

さんの体験談の組み合わせが、参加者に大変好評でした。

センター横浜北では横浜市立大学地域貢献センター連携講座として「貧血～あなたのその症状、貧血かも…」 「子宮筋腫～低侵襲治療をめざして」を開催しました。女性の身近な健康テーマについて、最新の医療情報が分かりやすく解説され、参加者からもたくさんの質問が寄せられて高い関心を集めました。



女性の健康セミナー
「乳がん、その後をわたしらしく」

<利用者の声>

- ・ 他の体操とちがい手術して凝り固まってきた肩や胸が楽になりました。同じ病気の方にお会いして元気をもらっています。交流の時間には他に情報収集の場がないため、とても助かっています。(当日参加教室「女性のがん手術後のリハビリ体操」)
- ・ 子どもと一緒に参加でき、なおかつバランスボールもできて心と身体をリフレッシュできました。(当日参加教室「心とからだを整える産後のセルフケア」)
- ・ 説明がわかりやすく、二週間に一度のペースがちょうどよかった。(3 ヶ月コース「週末・リラックスヨガ」)
- ・ 初心者にやさしい講座で、ベリーダンスの一步にとってもいいと思いました。(3 ヶ月コース「はじめての健康ベリーダンス」)
- ・ 毎週土曜だと参加しにくいですが、隔週の講座は参加しやすくてよかった。私にはこれくらいがちょうどよく、継続を希望します。(3 ヶ月コース「週末やさしいヨガ」)
- ・ 健康であるためにどんなことを心がければよいのかをいつも先生が話してくださるので、楽しくためになっています。また、1つ1つの動きにイメージを持って取り組むのがとても脳と体に良いと思います。(6 ヶ月コース「中国気功法・太極拳」)
- ・ 昨年もセミナーに参加したが、またちがう切り口で治療後のケアについて聞いたのでよかった。体験談もプライベートなことまで話されて、自分だけじゃないと励まされた。医療は進んでいくので、このようなセミナーをまた開催して欲しい。(女性の健康セミナー「乳がん、その後をわたしらしく」)

(4) 女性への暴力防止と被害者支援事業

◆法律講座

女性が自らの生き方を自己決定する一助としての法律講座「夫婦関係・離婚をめぐる法律講座」を基本編、子育て期編、中高年編など5つのテーマに分けて、センター3館で計6回開催しました。全体を通して市民ニーズや満足度は高く継続的な開催が必要とされる講座です。また、地理的にセンター3館にアクセスしづらい旭区からの要請を受け、出前形式による「基本編」講座を開催しました。

◆「女性のための護身術 WEN-DO(ウェン・ドー)」10代からシニアまで

カナダで開発された「女性のための護身術プログラム WEN-DO」をセンター3館で実施しました。親子や姉妹での参加も含め、10代～60代の幅広い年齢層の女性が参加しました。あらゆる場面を想定しての対処法や危険回避のポイントのほか、人との距離の取り方についてわかりやすい図解説明があり、参加者の心身をまもるための講座として定着しています。3館ともに早くから定員を上回る申込みがあり、ニーズの高さがうかがわれました。

事業本部事業企画課では、不要になった古本やDVD等を寄附してもらい、その売却代金を資金として事業を行う「性暴力から少女を守る！ 古本募金キャンペーン」を実施しました。集まった寄附金は目標金額6万円を達成し、小学1年生から18歳までの少女を対象とした護身術講座を無料で開催することができました。

◆デートDV 防止啓発事業

センター横浜では、3年目になる「デートDV 防止啓発出前講座」を市内の中学、高校で、計19校、25回実施しました。NPO法人エンパワメントかながわスタッフが講師となり、約3,200人の生徒、学生および教職員に対し、デートDVについて考えるきっかけを提供しました。デートDVという言葉や意味に対しての認知度が低い中、「人権」の視点をベースにDV防止にアプローチするプログラムは、わかりやすく、啓発の効果が見られました。

また、国際ソロプチミスト横浜・横浜東・横浜西・横浜みらいの4クラブとの共催で、現役大学生でお笑いタレントのたかまつななさんを講師に、「いっしょに考えるデートDV」を開催しました（会場はセンター横浜南）。たかまつななさんのお笑いミニステージ、相談員によるデートDVについての解説の後、市内の高校に通う男女3人が、たかまつななさんとともに登壇しました。進路選択が交際相手の意向と異なり、相手から強要があった場合にどうするかなど



「いっしょに考えるデートDV」

の事例をもとに、高校生の交際観が語られ、相手の気持ちを尊重しつつ、自分を大事にすることについて、白熱した意見が交わされました。

同時に会場のロビーで、2013 年度に制作した「STOP！デートDV写真展 Photo by 小野啓」のパネル展示を行いました。

◆DV 経験者のためのケア・プログラム

NPO 法人レジリエンスと協働で、DV、モラルハラスメントやトラウマなど女性の心の傷つきのケアについてワークをしながら考える講座を毎月1回、開催しました。「自分を守る境界線」「加害者とは」「自尊心」など各回毎にテーマを設定し、午前中にセミナーを、午後に少人数のサポートグループを実施しています。セミナー参加者の4割近くがサポートグループに参加し、それぞれが安心できる環境で必要な情報を得たり、気持ちを分かち合ったりできる場となりました。

また、新規講座として身体面から心の傷つきをケアし、心身の健康に役立てることをめざした「わたしをまもるヨガの時間」を毎月第3火曜日に実施しました。気軽に参加できるよう予約不要とし、着実に参加者数を増やしています。

<利用者の声>

- ・ とてもためになった。上下関係ではなく平等であることが大事だと思いました。(デートDV防止啓発出前講座)
- ・ ただ聞くだけではなく、自分の意見を言ったりして積極的に参加し、デートDVや自分のことに対して考え直すことができました。(デートDV防止啓発出前講座)
- ・ どこに相談してもよく理解できず混乱していましたが、今日の講座で予備知識が得られてとても良かったです。(夫婦関係・離婚をめぐる法律講座)
- ・ DVのトラウマが自分にあるらしいと気づき、あらゆる機関に相談してきましたが、これというものはなく、分からない苦しみに苦しんでいました。この講座に参加して、スタートラインに立てたような気がします。自分が立ち直るために、これからも出席させていただきたいと思います。ありがとうございました。
(DV・モラハラ・トラウマを理解する 女性のためのこころのケア講座)
- ・ ウクレレの音が呼吸を意識しやすくさせ、とてもすっきりしてよく眠れるようになりました。月に1回でなく週1回で通いたいです。(わたしをまもるヨガの時間)
- ・ とにかく身の回りの人との人間関係を保つために自分より相手はどう思うかと考えがちになっていますが、まず自分をしっかり持つことを再確認できました。(女性のための護身術WEN-DO)
- ・ 高校生が自分の意見を率直に話していて、とてもよかったと思いました。好感がもてました。たかまつななさん、おもしろかったです。デートDVは身近な問題なのだと思います。(「いっしょに考えるデートDV」)

(5) 女性の自己表現支援事業

◆アサーティブ体験講座

控えめで謙虚であることを求められがちな女性が、自分と相手の双方を尊重しながら、その場にふさわしい方法で自分の気持ちや意見を表現するコミュニケーションのスキルを学ぶ「アサーティブ体験講座」を、対象別にセンター3 館で実施しました。相手の依頼を断る、相手に頼みごとをするといった場面を想定したロールプレイを通して、自分も相手も大切にできるコミュニケーション法とは何かを、のべ 63 人の参加者が体験しました。

参加者からは、「自分の素直な気持ちを話すことで、伝わりやすくなると体験した」「対等に向き合う姿勢の大切さがわかった」などの声が聞かれました。ロールプレイをとおして、参加者同士がエンパワメントしあう場になっています。

◆発達障がい気になる女性のためのしゃべり場

センター横浜では、発達障がいと診断されている、または発達障がいかも、と不安に思っている当事者女性のほか、発達障がいの家族や友人を持つ女性が集まり、発達障がいを肯定的にとらえ、安心して話せるしゃべり場「発達障がい気になる女性のための～きらきら☆カフェ」を、4 回開催しました。コミュニケーションのコツをつかむワークショップや、お茶を飲みながら日頃の困りごとを話し合う中で、発達障がいであってもそうでなくても、自分らしさを大切に生きることを確認する場をもちました。

◆アートワークショップ

センター横浜では、ゆっくりした呼吸や声を出すトレーニングを通して自己を解放するワークショップ「女性のための心のアート『アメージング・グレイスを歌う!』」(全 4 回)を開催しました。声とこころと呼吸のバランスを考えた発声を学び、スタンダードナンバーを歌うことによって、潜在する声の力を引き出すワークショップは、参加した女性たちのエンパワメントにつながりました。

センター横浜北では、毎月「手編みでつながるニットカフェ in あざみ野」を実施し、幅広い年代から、のべ 323 人の参加がありました。思い思いに編み物をしながら、お互いの完成品を披露し合ったり、初参加の方に声をかけたりと、ゆったりとした時間と交流を楽しむ場となっています。一時保育の利用ができるた



女性のための心のアート
「アメージング・グレイスを歌う!」



「手編みでつながるニットカフェ
in あざみ野」

め、リフレッシュできてうれしいと、子育て中の女性にも好評でした。

◆ミニギャラリー

ミニギャラリーでは4月から8月までに、3館合せて23グループが展示を行いました(9月からは展示設備は施設の附帯設備となり、施設管理運営業務に移行)。スペースの広さや出展料が手頃のため、身近で手軽な発表の場として利用でき、来場者との交流も楽しめる、と好評でした。



横浜和江写真展「横浜中華街の人々」

センター横浜北、横浜南では、各センターで普段、活動を行っているグループの作品展示が多くありました。センター横浜では、市民利用されていない期間に、神奈川県ユニセフ協会との共催でパネル展「働かされる子どもたち／ネパールの現状」を開催しました。

◆映画上映会

女性監督の作品や女性の生き方を描いた作品の上映会を開催し、女性の多彩な表現活動に親しむ機会を提供しています。センター横浜では、「ベニシアさんの四季の庭」や「六月燈の三姉妹」を上映しました。フォーラムまつりでは、国際ガールズ・デーに合わせ「ソウルガールズ」を上映し、女子のパワーが感じられて楽しめたと好評でした。そのほか、女性監督のドキュメンタリー作品と監督によるトーク「トークバック 沈黙を破る女たち」＋坂上香監督トーク、「何を怖れる～フェミニズムを生きた女たち」＋松井久子監督・桜井陽子トークを行いました。どちらの作品も監督の想いを直接聞くことができ、自ら声を上げることが大切というメッセージが共感呼びました。

センター横浜南では「女たちの都～ワッゲンオッゲン」や「麦子さんと」、またフォーラム南太田まつりでは「キトキト!」を上映しました。上映作品選定も好評で、上映会を楽しみにしているリピーターも増えてきています。映画鑑賞券には「めぐカフェ」のドリンク券をつけ、上映会前後はカフェにも人が集まり、館全体が賑わうイベントとなっています。

◆ピアノ・レッスンの夜

稼働率の低い平日夜間のホール利用を活性化するため、1時間単位でグランドピアノを弾ける機会を提供しました。2015年1月からは、従来の火曜・水曜の利用日を拡大して木曜を追加したところ、コンサート前の練習などで約600人の方にご利用いただきました。ホールの響きを感じながら練習ができて良かった、音の違いや楽器の良さを感じたなどととても好評で、今後も継続して利用したいとの声が多く寄せられました。

<利用者の声>

- ・ 技術やテクニックだけでなく、相手と向き合うときの心の姿勢の大切さと権利を尊重する重要性を学びました。(働く女性のためのアサーティブ体験講座～自分も相手も大切にしたコミュニケーション)
- ・ 「言いづらいんだけど」宣言! 「言いづらいけど」と言ってから、伝えたいことを伝えようと思いました。(アサーティブ体験講座～自分も相手も大切にしたコミュニケーション)
- ・ 他人と比べずに自分をほめることは難しいけれど、頑張って今後もやってみようと思いました。(こころのちから講座～アサーティブネス体験)
- ・ 上手く話せないことを気にせずに話ができて、楽しかったです。話すことがストレスになり疲れてしまいがちなのですが、言葉を使わないワークがあったり、話をする相手がワークごとに変わったりして、あまり疲れることなく話せたと思います。肯定されること、自分のままでいられることは素敵なことだなあと感じました。
(発達障がい気になる女性のための～きらきら☆カフェ)
- ・ 和気あいあいとした雰囲気講座が進み、楽しい時間を過ごすことができました。「アメージング・グレイス」は元々とても好きな曲の一つでしたが、曲がりなりにも自分で歌うことができるようになり、とてもうれしく思っています。これからも声を出すということが続けていきたいと思っています。(女性のための心のアート「アメージング・グレイスを歌う!」)
- ・ いろいろな世代の方とお話ししたり、とても良い雰囲気で元気が出ました。お茶を飲みながら編み物ができて満足です。(手編みでつながるニットカフェ in あざみ野)
- ・ 自分を曲げずに自分の人生を大切に生きた方々にお会いできて幸せいっぱいです。声を上げることの大切さを大事にしたいと思っています。(映像サロン「何を怖れる～フェミニズムを生きた女たち」)

(6) くらしの安心・安全事業

◆男女共同参画の視点を地域防災の取組みへ

センター横浜北では、地域の多様な防災の取組みと積極的な連携をはかりました。『YOKOHAMA わたしの防災カノート』の活用を広げるために、職員を区役所・消防署、自治会・町内会やPTA、家庭防災員等の防災研修として市内外 33 カ所に派遣。日ごろからの男女共同参画の取組みが、身近な安心づくりに重要であることを伝える機会ともなりました。

また、地域防災を担う女性人材の育成をめざした「伝える力・聴く力～ミーティング&会議上手になろう！」を主催し、定員を上回る参加を得ました。そのほか、NPO との協働で「子連れアクティブ防災講座 in 横浜」を開催。横浜市消防局からの要請を受けた「2014 消防フェア」や青葉区制 20 周年記念「AOBA 防災フェア 20th (ハタチ)」に、親子向けオリジナルゲーム「あざみんの防災さかなつり」と職員が考えた「親子の非常持出し品」「働く女性の帰宅困難支援グッズ」展示をもって参加しました。



「伝える力・聴く力」でのラベルワーク

これらの実践により、センター横浜北は青葉消防署長より消防行政発展の感謝状を受けました。

また、センター横浜南、センター横浜北両館では、(一社)横浜青年会議所と「備えてますか～AfterBo-sai 72 時間生きるプロジェクト」を共催実施しました。

◆大学との共催 授業「災害と女性」の新規取組み

センター横浜では、フェリス女学院大学との共催により、後期授業「災害と女性」に企画協力、震災経験者や有識者と共に、職員が講師を担いました。約 60 名の女子学生が 4 カ月の授業を通じて、いざというときの備えや身を守る方法、学生・大学が果たす共助のあり方について学びを深めました。「フェリス生が持きたい防災グッズ」のグループ発表など、若い女性ならではの安心への目線をいかし、災害への備えを考える機会としました。



後期授業「災害と女性」
フェリス女学院大学での学生発表

◆身近な地域と暮らしの安心・安全づくり

センター横浜南では、24 時間相談ダイヤル「よりそい ホットライン公開連続講座」を(一社)社会的包摂サポートセンターと連携して実施し、4 回でのべ 121 人の地域の支援者が参加しまし

た。講座では女性、被災地、外国籍など各方面の専門家を講師に迎え、相談現場での豊富な事例をもとに生活困窮や暴力被害、障がいなどで社会的に排除されがちな人への多角的な支援のあり方、地域に密着したセーフティネットづくりを講演や意見交換を通じて考える場となりました。

また、トークサロン「モノと人生の区切りをつける」では遺品整理業を営む講師が現場からみた暮らしと住まいについて話し、40 人の参加者が聴き入りました。

センター横浜北では、環境問題を通じて、地域と暮らしを見直すことをテーマに、NPO 法人農に学ぶ環境教育ネットワーク、NPO 法人森ノオトとの共催事業「あおば・未来へつなぐ食と農のフォーラム」を開催しました。マクロビオティック料理研究家として活躍中の中島デコさんをゲストに迎え「食・農・子育て」をキーワードに全員参加型のフォーラムを行いました。129 人が参加し、食への安心・安全の意識や、横浜北部地域ならではの農への関わりなどを、自由に語り合い、発表し合いながら交流を深めました。



「よりそいホットライン公開連続講座」



「あおば・未来へつなぐ食と農のフォーラム」

<利用者の声>

- ・ 防災には日ごろからのつながりや活動が大事であることがよくわかりました。さっそく、地区の防災力シートをつくって老人会の集まりで勉強します。
(『YOKOHAMA わたしの防災力ノート』活用出前(地域連携)事業)
- ・ 実際に話しながら実践的に進められたのでとても勉強になり、有意義であつという間に時間が過ぎました。(伝える力・聴く力～ミーティング&会議上手になろう!)
- ・ フェリス学生の携帯用防災グッズの発表では他の人の必需品を聴いて、自分では思いつかなかったものがあり、あらためて備えようと思った。(フェリス女学院大学 2014 年度後期授業「災害と女性」)
- ・ 社会的孤立の実態、稼働世代の経済的に困難な現状も含めて、生活困窮者対策への理解が深まった。抽象的に「頑張れ」と言うだけでなく、具体的かつきめ細かく見ていくことが大切と分かった。(よりそいホットライン 公開連続講座)

6 協働連携事業

(1) NPO・市民グループ等との協働事業

◆市民企画講座・ワークショップ事業

センター3 館では、市民グループや NPO の専門性と男女共同参画センターの強みを活かし、協働で事業を展開することを通じて、地域課題の解決を目指す男女共同参画の取り組み「市民・NPO がつくる男女共同参画事業」を行っています。

男女共同参画センターで実施する講座・ワークショップの企画を募集する「市民企画講座・ワークショップ事業」の枠組みでは、2014 年度もさまざまな企画の応募があり、選考に基づき、センター3 館で 21 企画（センター横浜 8 企画、センター横浜南 4 企画、センター横浜北 9 企画）を実施しました。

子育て中のろう・難聴女性による手話を介して地域とのつながりをつくるワークショップ、ポルノ被害などの性暴力についての啓発講座、男性の育児参加をサポートするベビーマッサージやベビーヨガのワークショップ、子ども向けの理科実験講座、障がいのある子とともに生きることや自分の障がい観を見つめる連続講座、LGBT 当事者の若者による就職問題を考える講座など、多岐にわたる分野の市民企画事業を市民に届けることができました。



「パパのためのベビーマッサージ」

◆地域出前企画（助成事業）

男女共同参画推進に役立つ講座等を、地域で実施する企画を募集する「地域出前企画助成事業」の枠組みでは、センター3 館で 3 企画（センター横浜、センター横浜南、センター横浜北で各 1 企画）を選考し、実施しました。

DV や傷つき体験のある女性がメイクアップを通じて自己肯定感を高める講座「わたしに微笑むためのメイクレッスン」については、母子生活支援施設等で、多文化で地域防災を考えるワークショップ「多文化で考える防災・減災～つたえる、つながる」については、外国につながる子どもたちが多く在籍する放課後キッズクラブと市内幼稚園で、将来の働き方を考える大学生が新しいものづくりに挑戦する起業家・経営者から話を聞く「横浜で活躍する先輩に学ぶ白熱キャリアゼミナール『ヨコハマ働くラボ』」については、シェアオフィスや



「横浜で活躍する先輩に学ぶ白熱ゼミナール『ヨコハマ働くラボ』」

コミュニティカフェで、それぞれ出前講座として実施しました。

◆啓発教材・調査研究企画（助成事業）

男女共同参画推進に役立つ啓発教材の制作や調査研究についての企画を募集する「啓発教材・調査研究企画助成事業」の枠組みでは、LGBT の当事者グループである、NPO 法人 ReBit の教職員向け啓発ハンドブック作成に助成しました。

作成した『性別 男・女だけじゃない！ 先生が LGBT の子どもと向き合うためのハンドブック』は、「LGBT とは」「なぜ教育現場で取り組む必要があるのか」「LGBT の子どもが困りやすいこと」「相談しやすい先生とは」といった実際的な内容で、教育委員会を通じ、横浜市立学校 512 校に配布しました。配布先の学校からは、大変わかりやすい、役立つという声が寄せられています。



『性別 男・女だけじゃない！
先生が LGBT の子どもと
向き合うためのハンドブック』

<利用者の声>

- ・子育て中の（難聴の）お母さんたちはパワフルですね。子どもと一緒に勉強できる手話講座があれば行きたいです。（きこえないママ×まちプロジェクト）
- ・色々な親子さんに会えてよかったです。家で実践してみます。（パパのためのベビーマッサージ講座）
- ・なかなかこういうワークはないので、またぜひ参加したいです。自分を見つめられて、映画の力でよりワークが楽しめました。（映画「トークバック～沈黙を破る女たち」上映会＋ワークショップ）
- ・被害に遭われた方に「あなたは悪くない」と声に出して言える一人になりたいと思いました。（かながわの StaRT すべての性暴力被害者のために）
- ・楽しいです。自分のケアをしたいです。きれいになって自分を好きになりたいです。やさしくパワフルな先生の DV や心のケアのお話を聞いていると、心にぐっときます。（わたしに微笑むためのメイクレッスン）
- ・マップを使用し、どれだけの被災が起こり得るのか知ることができた。また、同じグループの方がどういったことに不安を抱いているのかしることを共有することができて良かった。（多文化で考える防災・減災～つたえる、つながる）

(2) 横浜市民ギャラリーあざみ野との協働事業

◆あざみ野サロン

センター横浜北は、横浜市民ギャラリーあざみ野（以下、市民ギャラリー）との複合施設として「アートフォーラムあざみ野」を管理運営しており、2つの施設のそれぞれの理念やネットワークを活かした協働企画に取り組んでいます。

アートフォーラムあざみ野を地域の幅広い層の市民に周知し、文化活動を身近に楽しんでもらうことを目的として、レクチャールームを会場に、「あざみ野サロン」を3回実施しました。

本年は「神奈川フィル名手たちによる弦楽四重奏～アロマとクラシックの幸福な関係」「親子で楽しむピアノで展覧会」「マーガレット・サッチャー～鉄の女の涙」上映会&ミニトーク「映画女優の魅力～メリル・ストリープ」の3本のラインナップとなりました。

アートフォーラムフェスティバルのメイン事業として実施した上映会&ミニトークは満席となり大盛況でした。映画の導入となった渡辺祥子さんのトークが明快でわかりやすく、英国初的女性首相マーガレット・サッチャーの晩年の苦悩が鮮やかに描き出された映画も好評でした。



「マーガレット・サッチャー ～鉄の女の涙」
上映会&ミニトーク「映画女優の魅力
～メリル・ストリープ」

◆ロビーコンサート

毎月第2・4日曜日のお昼に、アートフォーラムあざみ野のエントランスロビーで、無料の「Welcome! アートフォーラムあざみ野ロビーコンサート」を開催しています。クラシックの名曲ほか、親しみやすいさまざまなジャンルの曲がピアノ、弦楽器や管楽器で奏でられ、吹き抜けのロビーに楽器の音や歌声が広がって、施設利用者や近隣住人にも好評のイベントです。



「Welcome! アートフォーラムあざみ野
ロビーコンサート」

◆大学生がつくるミニギャラリー「写真と本で伝える デートDVの現実」

夏休み期間に大学生のインターンを迎えて実施している「アート×男女共同参画インターンシッププログラム」は、センター横浜北と横浜市民ギャラリーあざみ野が協働で開発したオリジナル事業です。情報ライブラリで所蔵する図書資料やポスターを素材に、自分たちが抱いた関心や想いを「大学生がつくるミニギャラリー 本の展示」として発信する、1週間のプログラムです。

今年度は3人の大学生が、デートDVをテーマに、「STOP! デートDV 写真展 photo by 小野啓」の巡回写真パネルと図書を使って、展示を制作しました。相談センターの職員や市民ギャラリーあざみ野の学芸員から展示に関するレクチャーを受け、大学生の視点から同世代へ、デートDVというテーマを通し、ミニギャラリーからメッセージを発信することができました。



「ミニギャラリー」企画に
取り組んだ大学生たち

◆心をつなぐパープルアートカフェ

女性に対する暴力をなくす運動（毎年11月12日～25日）の時期に合わせ、パープルリボンウィークとして、パープルリボンをモチーフにしたアートワークショップと啓発資料展示を行いました。アートワークショップでは、ビー玉や輪ゴムを使って、思い思いに模様を描き、ストールやランチバッグをむらさき色に染め上げる、染色ワークショップを開催しました。



「心をつなぐパープルアートカフェ」

手しごとを通して、パープルリボンの意味やDVについて、身近に考えてもらう機会となり、好評を得ました。

<利用者の声>

- ・ 久々に感銘を受けた映画です。女性という立場をいろいろ考えさせられました。
(あざみ野サロン vol.40 「マーガレット・サッチャー～鉄の女の涙」 上映会& ミニトーク 「映画女優の魅力～メルル・ストリープ」)
- ・ 映画前の渡辺さんのトークがとても素晴らしかったので、より一層、いろいろなことを思い巡らせることができ、とても良い機会を得ることができました。(あざみ野サロン vol.40 「マーガレット・サッチャー～鉄の女の涙」 上映会& ミニトーク 「映画女優の魅力～メルル・ストリープ」)
- ・ 苦しい思いをしている人がたくさんいて、それを助けてくれる場所や人がたくさんあることを学びました。デートDVは、表面に見えにくいということが印象的でした。
(アート×男女共同参画インターンシッププログラム)

(3) 秋のフォーラムまつり

◆フォーラムまつり

センター横浜では、国連が制定する国際ガールズ・デーの10月11日に、「フォーラムまつり 2014」を実施しました。初の土曜開催でしたが、63 グループが参加し、6,900 人の来場がありました。さまざまなワークショップや楽器演奏や合唱、ダンス、食品や物品の販売などで、館内も前庭もにぎやかな雰囲気に包まれました。手仕事交流ひろばは、18 グループの出店があり、生活工房と交流スペースの2カ所で開催しました。エントランスを舞台にしたパフォーマンスひろばは、客席を設け、多くの方に見ていただくことができました。



「フォーラムまつり 2014」

主催事業としては、明治学院大学ボランティアセンターの協力を得て「Girl Rising ～私が決める、私の未来～」の上映や、「Stand Up for Girls! ～知ることから始めよう、少女たちの今」と題してのパネルディスカッション、食事を通して世界の格差を体験する「ハンガーバンケット」を開催しました。あわせて、おすすめ本フェア「女の子に生まれて～世界と日本の女の子たちの今」の本の展示・貸出を行ったほか、ホールでは、オーストラリア先住民初の女性ボーカルグループの軌跡を描いた「ソウルガールズ」を上映しました。また、親子で参加できる「親子DE パソコン体験」「お父さんと遊ぼう」「楽しい工作とおもちゃ病院」を開催し、子どもの部屋は「親子お休み処」として開放しました。女性起業家たまご塾修了者が出店した、女性起業家 HAPPY テントにも、多くの方が立ち寄りしました。

◆フォーラム南太田まつり

センター横浜南では、「フォーラム南太田まつり 2014」を42 グループの参加により実施し、晴天に恵まれ、2,670 人の来場がありました。手作り小物等の販売コーナー、お茶席、友禅染や俳句、生け花等の作品の展示、手打ちそば等の軽食コーナー、混声合唱、朗読や琴のミニコンサート、フラダンスやアジア舞踊のパフォーマンスなど多彩な持込み企画が好評でした。また「めぐカフェ」も特別メニューで営業しました。



「フォーラム南太田まつり 2014」

主催事業としては、家族の絆を描いた映画「キトキト!」の上映会と、抱っこひもをつけたまま親子で踊れる「赤ちゃんサルサ!」を実施したほか、「子どもの部屋」では「ファミリー

デー」を開催、親子連れでにぎわいました。

◆アートフォーラムフェスティバル

開館9周年を迎えたセンター横浜北では「アートフォーラムフェスティバル2014」を実施し、45グループが参加、3,680人の来場者を迎えました。前年に比べて、若いファミリー層の来場が目立ち、来場者数も23%増加、にぎわい感あふれるフェスティバルとなりました。

手作り作品の製作体験や販売、NGO・NPOのグッズ等の販売、子ども用品限定のミニフリーマーケットを行う「アートフォーラムマーケット」は、市民ギャラリーの「あざみ野マルシェ」と一緒に開催して、38グループが出店しました。「あざみ食堂」は3グループの協力を得て実施し、500人あまりが訪れました。



「アートフォーラムフェスティバル2014」

「男女共同参画ミニワークショップ」は、市民NPO協働事業の3グループにより、親子が一緒に楽しむことができる機会を提供、のべ190人が参加しました。レクチャールームでは、「マーガレット・サッチャー～鉄の女の涙」&ミニトーク「映画女優の魅力～メリル・ストリープ」を開催し、185人の参加を得、満席となりました。また、本年のフェスティバルは青葉区制20周年記念協力事業として実施しましたが、青葉区のマスコット「なしかちゃん」も登場してフェスティバルを盛り上げました。

<利用者の声>

- ・ お天気もよく集客数も多く楽しい一日でした。来年はより上をめざして参加できたらと思っています。(フォーラムまつり)
- ・ 多くの方に見ていただき、楽しく踊らせてらせていただきました。(フォーラムまつり)
- ・ 他のグループの活動を知ることができ、来客やほかのグループとの交流が楽しかったです。(フォーラム南太田まつり)
- ・ グループの発表、結束の場となりたいへん有意義な機会でした。(フォーラム南太田まつり)
- ・ 出店者同士交流ができました。(アートフォーラムフェスティバル)
- ・ 来店者の喜んでいる様子を直接見ることができました。(アートフォーラムフェスティバル)

(4) その他の協働事業

◆女性のためのパソコン講座

女性が就労や社会参加をする上で必要なパソコンスキルの習得を支援するため、センター3 館で年間を通じて「女性のためのパソコン講座」を開講しました。女性が安心して受講できるよう環境に配慮し、女性講師が親切かついいいな指導を心がけて開講しています。2014 年度は、仕事帰りにパソコンのスキルアップを望む方の声に応え、夏季に戸塚で、冬季にあざみ野で、夜間講座「アフター5 コース」を開講しました。



「女性のためのパソコン講座」

年間で3 館合計1,417 人が受講しました。その中には、経済的に困難な状況にある女性も少なからずおり、参加費等免除制度を利用して受講しています。

◆一時保育

センター3 館では、主催事業参加者と施設利用者の1 歳半から未就学の子どもの一時的保育を実施しています。また、一部の事業については、2 ヶ月～1 歳5 ヶ月の乳児も受け入れました。

センター横浜では保育室を利用して、予約なしに親子で参加できる「木曜ひろば」を開催しました。子どもの部屋の利用のきっかけにもなり、初めての参加であっても、保育者の声かけで参加者同士が交流でき、安心して親子でくつろげる場所として大変



「親子のひろば」

好評でした。センター横浜北「親子のひろば」で月曜・木曜に実施している「グループの日」は、子育てグループの活動や地域の仲間づくりなどに活用されています。センター3 館は、子どもも保護者もそれぞれがセンターで充実した時間を過ごし、保育室が「安心できる楽しい居場所」の一つとなるように努めています。

◆市民運営協議会

センター横浜、センター横浜南では第2 期、センター横浜北では第4 期となった市民運営協議会は、3 館とも2 年任期の最終年となり、各館で3 回ずつ開催しました。市民運営協議会は市民活動に詳しい委嘱委員、実際に地域で活動している公募委員で構成されています。毎回、セン

ターの事業・施設管理について、委員からたくさんの提案がなされ、活発な意見交換が行われました。

◆センター横浜の協働事業

センター横浜では、地域の商店街、放送局、大学、NPO など様々な機関と協働し、事業を行いました。

NHK 横浜放送局、横浜市と協働で仕事と子育ての両立について啓発する「がんばれ！ハイブリッドママ！～働くママとその家族、応援します！」では、コンサートや体操、アートワークショップなど子どもが楽しめるイベントと育休後の仕事復帰のコツなどを伝える講演会を開催しました。

また、とつか宿駅前商店会が主催する地域活性化イベント「遊山箱（ゆさんばこ）スタンプラリー～遊山箱を持って商店会を歩こう！」のスタンプ設置地点として、センター横浜も参加しました。7月の七夕、10月のハロウィン、2月のひなまつりといった季節の行事にちなんだ飾りつけを行い、子どもを中心とするたくさんの地域の方を迎えて、楽しいゲームやお菓子の配布などを行いました。

LGBT 当事者の大学生が主体となって活動するNPO法人 ReBit と協働して、横浜市内の小学校に赴き、セクシュアル・マイノリティ理解啓発のための出前講座を行いました。セクシュアリティの自認が始まる学童期に、多様なセクシュアリティについての正しい知識と、女らしさ・男らしさを超えた自分らしさを認めることを伝え、生徒と教員の両方から高い評価を得ました。

このほか、2013 年度に引き続き、横浜市環境創造局受託事業「みんなで育てる小さなガーデン～緑でつながる、元気をもらおう～第2期」、アディクション・セミナー実行委員会との共催による第26回「アディクション・セミナー in YOKOHAMA～やめられる やりなおせる」を開催したほか、NABA 日本アレノキシア（拒食症）・プリミア（過食症）協会と共催で「NABA 全国出前セミナー2014 多様化する摂食障害からの回復と成長～受けいれるチカラと変えていくユウキ～そのココロは？」も実施しました。

◆センター横浜南の協働事業

協働3年目を迎えた南図書館での「女性のためのシゴト探し相談」を年に3回出前開催しました。図書館を相談の場とすることで、地域の方に幅広く利用してもらい、介護と仕事の両立、子



「がんばれ！ハイブリッドママ！～働くママとその家族、応援します」



「ハロウィン遊山箱スタンプラリー」

育て期の再就職などの相談にあたっています。

「フォーラム南太田マルシェ」は、地産地消の野菜市部門と手づくり市部門からなり、8 月を除く毎月開催しました。手づくり品を販売する出店は、年間のべ 30 件あり、布小物やアクセサリなど手ごろな値段で購入できると好評でした。また、野菜市は若年女性の就労体験の一場面として、人とふれあう場にもなっています。

新しい試みとして「かながわ特命子ども地域アクター」を受け入れました。この事業は神奈川県、NPO 法人ミニシティ・プラスなどが青少年による地域の担い手育成をめざして始めた取組みで、センター横浜南では地域アクターの高校生らを受け入れ、区内の母子生活支援施設の子どもたちを招いて、館内で調理実習を行いました。

このほか、国連ウィメン日本協会よこはまとの協働で「国際女性デー2015～つながる輪 ひろがる和 映画『オフサイド・ガールズ』とトーク」を実施しました。



「フォーラム南太田マルシェ」



「かながわ特命子ども地域アクター」
子どもクッキング

◆センター横浜北の協働事業

センター横浜北では、横浜市経済局との協働で実施した「がん予防の最前線！！～がん早期発見のために横浜ライフノベーション特区セミナー」に 141 人の市民が参加しました。実体験に基づく原千晶さんの講演、がん治療の専門家の講演などにより、横浜市の取り組みや予防の大切さを伝えました。

「青葉区民芸術祭 2014」を青葉区民芸術祭運営委員会、青葉区役所地域振興課との協働で実施しました。アートフォーラムあざみ野を会場に、区民が日頃の創作活動の成果を発表し、多くの来場者で賑わいました。

NHK の小学生向け番組「プレキソ英語」と連動したイベント「『Let's try! プレキソ英語』 in あざみ野」を開催、出演者と小学生、保護者との英語を通じた楽しいやりとりで会場が盛り上がりました。



「がん予防の最前線！！」

<利用者の声>

- ・ 受講者の立場に立った、わかりやすく親切な指導で楽しく受講できました。講師と受講者が全て女性なので安心して受講できました。仕事に役立つ機能やテクニックが学べたので、早速職場で習った知識を活用したいと思います。(女性のためのパソコン講座)
- ・ 安心して預けることができ、リフレッシュできました。保育中の様子をメモで渡していただけたのが嬉しかったです。(一時保育)
- ・ 皆で共同作業することが楽しかったです。また土や肥料のこと、オーガニックな植物の作り方についてたくさんヒントを頂けて役に立ちました。(みんなで育てる小さなガーデン)
- ・ 家庭や学校に居場所がない少女たちをとりまく状況について、具体的に知ることができました。もっと知っていかなければいけないし、自分にできることを考えていきます。(国際ガールズ・デーイベント 世界と日本の女の子の今)
- ・ 自分にはなかったアイデアで具体的な仕事探しの方法を教えていただけたので良かったです。(女性のためのシゴト探し相談)
- ・ イスラムが話題になっている折、タイムリーな映画だった。素朴な人の姿と会話が笑わせ、泣かせた。(国際女性デー2015～映画「オフサイド・ガールズ」とトーク)

7 男女共同参画推進施設管理運営事業

センター3 館は、男女共同参画推進のための市民利用施設として、施設自体がもつ複合的な機能を活用して、男女共同参画推進に関する事業を実施するとともに、市民の主体的な活動を支援する場を提供しています。市民が安心・安全に利用できるように、指定管理者の業務の基準に定められる施設管理項目を順守した運営を行います。

II 施設利用状況・施設管理業務実施状況

◆男女共同参画センター横浜

- ・総来館者数は 333,362 人で目標（333,000 人）を達成できました。有料施設の平均稼働率は 67.4%で目標（72.0%）達成には至りませんでした。前年度（66.4%）を上回ることができました。有料施設利用者アンケートでは、「大変良かった」「良かった」との回答は 90.7%で、高い評価を得ました。
- ・展示用設備（ミニギャラリー）の市民利用は、9 月～3 月末で 3 件、382 人でした。
- ・築 26 年を迎えた施設の長寿命化を図るため、計画的な小破修繕に取り組みました。ホールの親子席空調更新・固定席修繕・可動席背面張替、点字ブロック修繕、時計盤更新、洋式便器への更新及び幼児用便座設置を実施し、利用者の利便性向上に努めました。
- ・災害時の取組みとして、新たにエフエム戸塚と情報提供覚書を締結したほか、台風や大雨による風水害への対策強化のため、職員の臨時研修を実施しました。また、災害発生後の事業継続に必要な備蓄品等の確認と調達を行いました。職員はその使用方法を防災訓練で確認し、万全を期しています。
- ・前年度に横浜市の ESCO 事業として空調機器等の更新を実施し、今年度は横浜市・ESCO 事業者と運転状況やエネルギー削減実績を月例で確認しました。また、グリーンカーテン育成などによる省エネルギーにも引き続き取り組み、電力使用量は 2010 年度比で 39.8%削減できました。
- ・横浜市による大規模修繕として「庇・天井改修」「外灯改修」の 2 件を利用者の理解・協力を得ながら、館運営に支障なく実施できました。
- ・自主財源増収の取組みとして飲料自動販売機を 2 台増設し、販売手数料収入が前年度比 31.2%増となりました。

◆男女共同参画センター横浜南

- ・総来館者数は 182,573 人となり、目標（177,700 人）を達成しました。有料施設の平均稼働率は 63.4%で、目標（70.0%）達成には至りませんでした。施設利用者アンケートでは、「大変良かった」「良かった」との回答は 94.4%で、「清潔で使いやすい」、「1 階交流ラウンジが明るく開放的でよい」という声を得ています。
- ・展示用設備（ミニギャラリー）の市民利用は、9 月～3 月末で 12 件、3,491 人でした。
- ・築 37 年経過した施設を安全に運営するために、施設設備の計画的な保守点検管理を行い、冷温水ポンプの分解整備、館内全ての消火栓ホースの耐圧試験の実施や建築基準法第 12 条点検を計画のとおり行うとともに、屋上雨漏り対策工事、空調制御調節計交換工事等の対

応を行いました。

- ・ 横浜市の帰宅困難者一時滞在施設として、受入れ対応マニュアルを整備し、防災訓練において受入れ体制等を確認しました。
- ・ 前年度に引続き消費電力の削減に努め、2010 年度比 16.6%の削減を達成しました。
- ・ 利用者が気持ちよく部屋を使用できるよう、大研修室・各研修室の床面の剥離清掃を実施しました。

◆男女共同参画センター横浜北

- ・ 総来館者数は 357,828 人、有料施設の平均稼働率は 67.3%となり、目標（総来館者数 370,000 人、平均稼働率 70.0%）達成には至りませんでした。総来館者数については、前年度の 345,007 人を 12,821 人上回りました。また、平均稼働率についても、前年度の 67.0%を 0.3 ポイント上回りました。夜間の利用件数が徐々に増加傾向となっています。有料施設利用者アンケートでは、「大変良かった」「良かった」との回答は 92.4%となりました。
- ・ 展示用設備（ミニギャラリー）の市民利用は、9 月～3 月末で 19 件、2,576 人でした。
- ・ 前年度に引き続き、消費電力の削減に努め、電力量は 2010 年度比で 16.6%削減できました。
- ・ 複合施設「アートフォーラムあざみ野」の主たる管理者として、横浜市民ギャラリーあざみ野との緊密な連携のもと、利用者の安心・安全を最優先した管理運営を行いました。
- ・ 消防訓練では、大地震による火災を想定した消火・避難訓練と AED 操作訓練を実施しました。また、今年度は青葉消防署から平素の消防行政発展に寄与した功績として感謝状が授与されました。
- ・ 建築基準法第 12 条に規定される 1 年に 1 回の建築設備定期点検を実施しました。日頃から計画的できめ細かい管理を適正に行い、安全が保たれています。

協会本部は、男女共同参画センター横浜の一部（126.25 m²）を事務室として、横浜市から行政財産目的外使用許可を受けて使用しています。
なお、使用料（26 年度 2,813,508 円）は、全額免除となっています。

<利用者の声>

- ・ グランドピアノなどの付帯設備が整っていて快適に利用できます。（センター横浜）
- ・ 色々な広さの部屋があり、集中して利用できてよかった。（センター横浜）
- ・ 新しい備品の譜面台が無料で使用でき、助かります。（センター横浜南）
- ・ 清潔で広々と明るく、快適に利用しています。（センター横浜南）
- ・ スタッフの対応が親切、丁寧で、快適に利用できます。（センター横浜北）
- ・ ベビーカーでも安心して利用できます。（センター横浜北）

2014年度 事業報告書

発 行 公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会
〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1
電 話：045-862-5141
FAX：045-862-3101
URL： <http://www.women.city.yokohama.jp>
発行年月 2015年4月発行